

第3期「多言語の脳科学」共同研究 充実スタート！

2018年春より、fMRIによる認識調査スタート。

第2期、fMRIによる多言語話者の「カザフ語」認識調査の結果に併せて、今期は海外や多言語体験の少ない被験者のご協力を得て言語認識調査にとりかかります。該当の方はぜひご協力ください。

fMRI被験者募集対象

- 年齢：13歳～25歳までの男・女
- 1ヵ月以上の海外滞在経験のない人
- 5月～7月、東京大学酒井研究室で約2時間半、3～4日間認識調査に協力できる人
- 歯列矯正していない人（銀歯は可）
- 東京大学生ではない人
- 右ききの人
- ※ お礼（交通費程度）いたします

2018年5月12日(土)～13日(日) カバジェロス合宿に酒井邦嘉教授参加

全国のヒッポファミリークラブ、海外から男性メンバー約270名が山中湖に集合。合宿のゴールデンタイムで「多言語の脳科学」共同研究の根本的な考察をシェア。男だけの熱気の中、酒井教授や参加者のテンションもヒートアップし、質疑応答も白熱。



MITスザンヌフリン教授、東京大学酒井邦嘉教授を迎えて

「多言語の脳科学」共同研究～ブレインシェアリング等を2018年秋、2019年春等に予定。

第3期もMIT・スザンヌフリン教授、東京大学・酒井邦嘉教授、(一財)言語交流研究所・ヒッポファミリークラブの三者による「多言語の脳科学」共同研究が、より具体的に進められていきます。

豊かに多言語！
育てよう
「共同研究基金」！

皆さまの
ご活躍とご支援を、
どうぞよろしく
お願いいたします。

今年度も、家族や仲間と
楽しい多言語の環境づくりや国際交流を進めながら、
ヒッポファミリークラブの活動を基盤にして、
「多言語の脳科学」共同研究を支えていきましょう。

「多言語の脳科学」 共同研究基金

第3期(2018. 4. 1～2019. 3. 31) 募金活動がスタート！
引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

基金応募の対象

個人、グループ、団体
ご寄付は、個人、グループ、団体単位
で受付いたします。
一口 1,000円 一口以上何口でも。

ヒッポファミリークラブの地域活動、ワークショップ、講演会、
交流会などでも基金へのご支援をお願いいたします。個人はも
ちろんグループや団体でもご寄付いただければ幸いです。
グループ・団体の場合は、一口1,000円の単位に限りません。

基金への募金方法

銀行振込みの場合は右記にお願いいたします。
銀行窓口振込み手数料は、言語交流研究所が負担いたします。
言語交流研究所各本部でも受付いたします。

銀行名 城南信用金庫 渋谷支店(店番025)
口座名 一般財団法人 言語交流研究所
口座番号 【普通】 432039

基金のお申込み お問い合わせ先

一般財団法人言語交流研究所
ヒッポファミリークラブ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル3F
TEL. **03-5467-7041**(代) FAX. **03-5467-7040**
フリーダイヤル **0120-557-761** <http://www.lexhippo.gr.jp>

「多言語の脳科学」 東京大学・MIT・(一財)言語交流研究所 共同研究基金 News letter ニュースレター Vol.2

主旨

一般財団法人言語交流研究所 代表理事 鈴木堅史



2016年4月より、「多言語の脳科学」をテーマに東京大学・MIT（マサチューセッツ工科大学）・一般財団法人言語交流研究所の共同研究が始まりました。ことばを見つけ、生み出していく脳の働きに焦点をあて、人間の言語の振る舞いをより明らかにしていこうという試みです。脳は複数の言語をどのように処理するのか、また多言語体験者の脳は新しい言語にであった時どう反応するのか、いくつかのテーマを立て、多言語習得にかかわる脳のメカニズムを解明することがこの共同研究の目的です。まずは5年間の継続研究を目標に、多言語体験者の脳のメカニズムを解明していきます。

去年は、fMRIによる「カザフ語」認識調査へ多言語話者約20名にご協力いただき、研究も具体的に進みました。共同研究3年目の更なる進展が楽しみです。

この共同研究スタートと同時に『多言語の脳科学・共同研究基金』を設立いたしました。

第2期共同研究基金に、沢山のご寄付を賜りまして厚く御礼申し上げます。この共同研究を日本とアメリカで進めるにあたり、引き続き第3期共同研究基金にご支援いただきますよう、皆さまの募金をどうぞよろしくお願いいたします。



マサチューセッツ工科大学 言語学 教授 スザンヌフリン

この共同研究はとても大切な、且つ今までにないユニークなプロジェクトです。今後は日米だけでなく世界に広げていきたい。母語の習得に関しては比較的多くのことが分かっていますが、第二言語、第三言語など多言語の獲得について分かっていることは少ないのです。共同研究を通して、データを集め解析することで、人間の脳のメカニズムを解明していきます。



東京大学大学院 言語脳科学 教授 酒井邦嘉

複数の言語を操る能力の基盤を明らかにしたい。多言語習得によって、更に新しい言語を身につけることが容易になることを仮説として考えています。もしもそうであれば、脳の変化として十分に捉えられるはず。少なくとも三つ以上の言語を習得していると、さらに一つ足すことが容易であるのは経験的に明らかです。しかしこれは経験則であって、科学的な説明がなされたことはほとんどありません。このような斬新な研究を進めていきます。

「多言語の脳科学」共同研究基金 第2期募金額

ヒッポファミリークラブメンバー、フェロウ、フェロウご家族、フェロウ地域会、交流グループフェロウ、地域合宿事務局等より、沢山のご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

第2期共同研究基金の募金を「多言語の脳科学」共同研究に充当させていただきます。

募金額
1,003,325円
Gracias!



第2期(2017年4月1日～2018年3月31日)の共同研究から

7月11日(火) オープントラカレ講座；酒井邦嘉教授「ノームチョムスキーの統辞構造論」 於；言語交流研究所本部

言語研究の目的と方法を根底から変革したノームチョムスキー「生成文法理論」の誕生を世に知らしめた「統辞構造論」をもとに、酒井邦嘉教授が約150名の聴衆と共にチョムスキー博士の言語の根本理論に熱く迫る。その扉を叩き、「統辞構造論」の門をくぐった！という感動と次講座待望の声が上がった。

7月30日(日) 14：00～16：30 「多言語の脳科学」共同研究シェアの会 ブレインシェアリング 於；言語交流研究所本部

7月31日(月) 「多言語の脳科学」共同研究ワークショップ 於；国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

来日したスザンヌフリン教授、酒井邦嘉教授と、共同研究の進行状況を共有。ワークショップで、フリン教授は「言語獲得の長年の研究成果に基づいて、もし私が完璧な言語習得プログラムをつくるとしたら、間違いなくヒッポファミリークラブと同じものになるだろう」「ヒッポファミリークラブは世界のモデルであり、世界中がヒッポファミリークラブのメンバーだったら！」と語った。酒井教授は「脳科学からみた多言語の素晴らしさ」のタイトルで、人間は多言語を自然に獲得することを力説され、熱気溢れる両日となった。

カザフ語による認識調査プロジェクトスタート

夏以降、東京大学大学院・酒井邦嘉教授研究室でfMRIによるカザフ語認識調査開始。〈13歳～29歳までの男女、日本語を母語とし英語とスペイン語が話せる人、スペイン語圏に6ヵ月以上滞在経験のある右利きの人〉約20名が被験者になり、その検査データをまとめている。

8月2日(水) 「多言語×脳科学」共同研究シンポジウム 於；福岡市健康づくりサポートセンター あいれふホール

8月4日(金) 「多言語×脳科学」共同研究シンポジウム 於；広島県民文化センター 多目的ホール

ヒッポファミリークラブ西日本主催で初の「多言語×脳科学」共同研究シンポジウムが福岡県教育委員会、西日本新聞社、広島県、広島県教育委員会、中国新聞社の後援で開催される。行政や教育関係者の関心も高く、両日で約400名が参加。



2018年 2月19日(月) ブレインシェアリング 於；言語交流研究所東京本部

2月20日(火) 親子で参加できる公開講座「Raising Multilingual Children ～多言語で子育て！ 自分育て！」 於；東京国際フォーラムホールD

2017「多言語の脳科学」共同研究 GOLDEN DAYS
言語交流研究所 研究員 野口和子(新潟)

言語交流研究所ヒッポファミリークラブでは『多言語の自然習得と国際交流』を家族や仲間楽しんでいきます。2018年2月は私たちヒッポファミリークラブの活動にとって、心おどる3日間になりました。

2月18日(日) 第5回LMP (LEX Multilingual Presentation) 東京ビッグサイト・国際会議場

高校生部門13名・大学生社会人部門25名が参加。昨今の若者の「ヤダ！マジ？ムリ…」など会話ボキャブラリー貧困の中、自分たちの持っていることばを最大限に駆使して、それも3ヵ国語以上の多言語で話そうという大会です。プレゼンテーションにもたくさんの工夫が見られ、どのプレゼンターもすごい！さらに日本語学校で学ぶ多国籍の若者の参加もあり、第5回目のLMPは、社会に向けてのメッセージ性が光っていました。ファミリー、地域の皆が関わって、プレゼンターを育てる～1000人のオーディエンスを前に、若者のメッセージが日本や世界に多言語で発信されました。

19日(月) 第3回ブレインシェアリング

ヒッポ渋谷本部でスザンヌ・フリン教授@MIT（アメリカ マサチューセッツ工科大学）と酒井邦嘉教授@東京大学大学院がヒッポファミリークラブと三者で進行中の共同研究に関して、まだ論文として未発表の内容にも触れていただきました。2016年の第1回に実験が提案され、言語知識・言語使用の基にある神経基質について調べることを目的としたプロジェクトです。フリン教授は言語の重要性・言語に関する仮説を引き出し、調査の結果を解釈する（言語の特性についての）仮定を立てて、まずは言語に関する共通の誤解を乗り越え、さらに『多くの言語を知れば知るほど習得するのが簡単になる』という仮説を、実験を通して研究しています。実験は進行中で、現在19例の被験者のデータをグラフ化して、酒井教授が脳の画像とともにわかりやすく説明してくださいました。被験者は、母語が日本語・第二言語が英語・さ

らにスペイン語圏に6ヵ月間以上滞在・右利き・13～29歳という条件で、カザフ語を習得するときの脳の動きを見るためにfMRI（機能的磁気共鳴断層撮影）の中で文法問題を解きます。全く知らないカザフ語の文法を自分で発見する時の脳は英語・西語と同じ部分が反応するそうです。脳の活性化ではなく、脳内では省エネ化が起こっているらしいのです。

酒井教授は『ヘテロが大事』と強調されましたが、『多言語・多文化・多世代・多国籍…いろんな人があるから集団としてうまくまとまっていくのですね。そして自然な多様性の中に言語能力は位置づけられる。無理して勉強しなくても、人間は自然に話せる』ということです。もう一つ、『できないことの中にできることを少しずつ加えていくことで、できることがどんどん増えていく、続けていくことで成果が生まれます』と、大きな激励をいただきました。

20日(火)『多言語で子育て！自分育て！』～Raising Multilingual Children～親子で参加できる公開講座@東京国際フォーラム

今まで発表してきたフリン教授の言語習得に関する12原則をさらに発展させてお話されました。フリン教授はCumulative Enhancement Model（蓄積増強モデル）ということばで、2つ3つの言語を知っていれば、その後のどんな言語の習得もやさしくなることを説明し、人間の言語能力は『無限』であり、必要なのは、『TIME*DESIRE*ENERGY』であると述べました。これまでの講演のお話に加えて新しい説を沢山発表され、多言語を実践するには『ヒッポのメンバーになることが最適である』ということは何度も力説され、誰でも共感・共鳴できる内容でした。当日は100人以上もの赤ちゃん連れお母さんの参加がありました。ロビーに並んだ沢山のベビーカーが圧巻！でした。

『Multilinguals というのは名誉なことであり、自信をもって活動することです』と、ド～んと背中を押していただきました。これからの多言語ライフを皆さんと一緒に楽しんでいきたいです。



2018年 2月24日(土) 中部公開講座「Raising Multilingual Children ～多言語で子育て！ 自分育て！」 於；名古屋市 TKP ガーデンシティ PREMIUM 名鉄西口

2月25日(日) 関西特別講演「Raising Multilingual Children ～人間はどのようにことばを獲得するか」 於；ツイン 21 MID タワー



「Raising multilingual Children」講演会に、名古屋では330名、大阪では320名が集い、フリン教授の多言語獲得研究と鈴木堅史代表理事の「多言語の多様な音の波に浸る」環境づくりの成果発表が聴衆に大きな勇気を与えた。Ms. Elizabeth White (LEX America)、Sr. Javier Mares (LEX Mexico) 両責任者も参席し、世界のヒッポファミリークラブで、多言語活動と共同研究に取り組んでいる感動が広がった。

3月21日(水)・祝 オープントラカレ講座 酒井邦嘉教授「脳からみた多言語の秘密」 於；オリンピックセンター センター棟・セミナーホール

雪模様にも関わらず約300名が参加。人間の脳からみれば、あらゆる言語は〇〇語という外国語の分類はされず「人間のことば」という一つの機能で感受される。日本での英語教育の限界、ヒッポファミリークラブの多言語自然習得の利点に触れ、「2より3以上」の発想がより自然で豊かであると話された。共同研究のこの1年の活動や進展に皆がワクワクした。



酒井教授と司会チーム



MITに国際科学技術を推進・支援するGlobal Seed Fundsという基金があります。この度、「多言語の脳科学」共同研究が、研究テーマの新しさや研究のベースの実績が認められて、\$15,620の研究補助をいただくことになりました。MITの学生がこの研究のために日本を訪問、またMITでも共同研究ワークショップが開催できるなど、この基金によってMITやLEX Americaでも、共同研究が広がり始めています。

Elizabeth White (LEX America, Executive Director)

ご寄付者ご芳名

2017年4月1日に第2期共同研究基金の募金がスタートすると、全国から銀行振り込みで、また合宿やファミリーでの呼びかけ、各本部での募金など、2018年3月31日まで沢山のご支援をいただきました。ありがとうございました。

(敬称略)	30日 永井信子	1,000	金子きよみ	1,000
	富田朋子	1,000	中川紀子	1,000
2017年4月	円	8月	羽賀淑子	1,000
1日 関根寿美子	50,000	2日 福島県フェロウズ	折田玲子	1,000
6日 中部事務所	2,323	3日 ヨシダヤスコ	青木恵美子	1,000
5月		28日 東北オープントラカレ講座	金田貴恵子	1,000
12日 竹内博子・有嶋雪枝・北野明子	4,000	9月	藤咲麻里	1,000
25日 ふとるにくファミリー	2,280	4日 15 冬組 YL 親チーム	岩佐優子	1,000
6月		13日 井内わか	國分徳子	1,000
1日 タカツヒデカズ	5,000	29日 堀江妙子	富樫直子	1,000
ヒラオカアキコ オサム	10,000	10月	中村智子	2,000
2日 ハタノハツヨ	10,000	3日 ミナミトウホクフェロウ	米倉輝男	2,000
5日 キタムラサユリ	3,000	16日 コバヤシマユミ	豊田和子	3,000
12日 シバタカオリ	10,000	11月	陣川いづみ	3,000
15日 タカヤマアキタケ	20,000	7日 ツチャミチヨ	豆田和子	5,000
16日 カマザキノブオ	10,000	13日 埼玉東地域フェロウズ一同	竹内博子	5,000
19日 サクライヨウコ	10,000	26日 南東北フェロウズ一同三宅	真下知子	5,000
22日 オガワマスコ	10,000	12月	中山摩利子	10,000
イヌヤマチャットファミリー	10,000	7日 カ)コウウシャ	21日 スズキスミコ	10,000
7月		19日 張英玉	3月	
3日 豆田和子	5,000	2018年1月	5日 スガワラヒトミ	2,000
4日 セキカワタダシ	10,000	10日 サクライヨウコ	吉田清美	5,000
11日 星名和代	1,000	2月	18日 関根寿美子	50,000
木村智子	1,000	5日 イトウミヨコ	20日 カイトモコ	1,000
雨宮淑江	1,000	キタムラサユリ	21日 原元誉代	1,000
羽賀淑子	1,000	タカツヒデカズ	嶋よう子	3,000
金子きよみ	1,000	古澤不二子	23日 サイトウハルミ	10,000
折田玲子	2,000	大森ららF一同	26日 折田玲子	2,000
勅使河原敏子	2,000	八木賢治&洋子	27日 タニモトカズヒコ	100,000
野口和子	3,000	6日 小島規子	佐藤まなつ	10,000
小笠原靖江	5,000	フジタクミコ	28日 2018 スズータイコウリュウ	
陣川いづみ	5,000	7日 サカタアキラ	カマタマユミ ホカ	4,992
13日 サトウメグミ	50,000	13日 シラキススム	30日 モロホシカヨ	3,000
20日 キンシチョウナンジャモンジャF	10,000	14日 ウチダチホ	小出治史・上斗米正子	10,000
サクライヨウコ		高田美枝子	渡辺裕予	5,000
25日 ツジモトキクオ	10,000	19日 ホソミケイコ		
中村洋右・純子	50,000	富士山合宿事務局	合計	1,003,325
26日 小野寺科奈絵	3,000	小林ゆかり		